

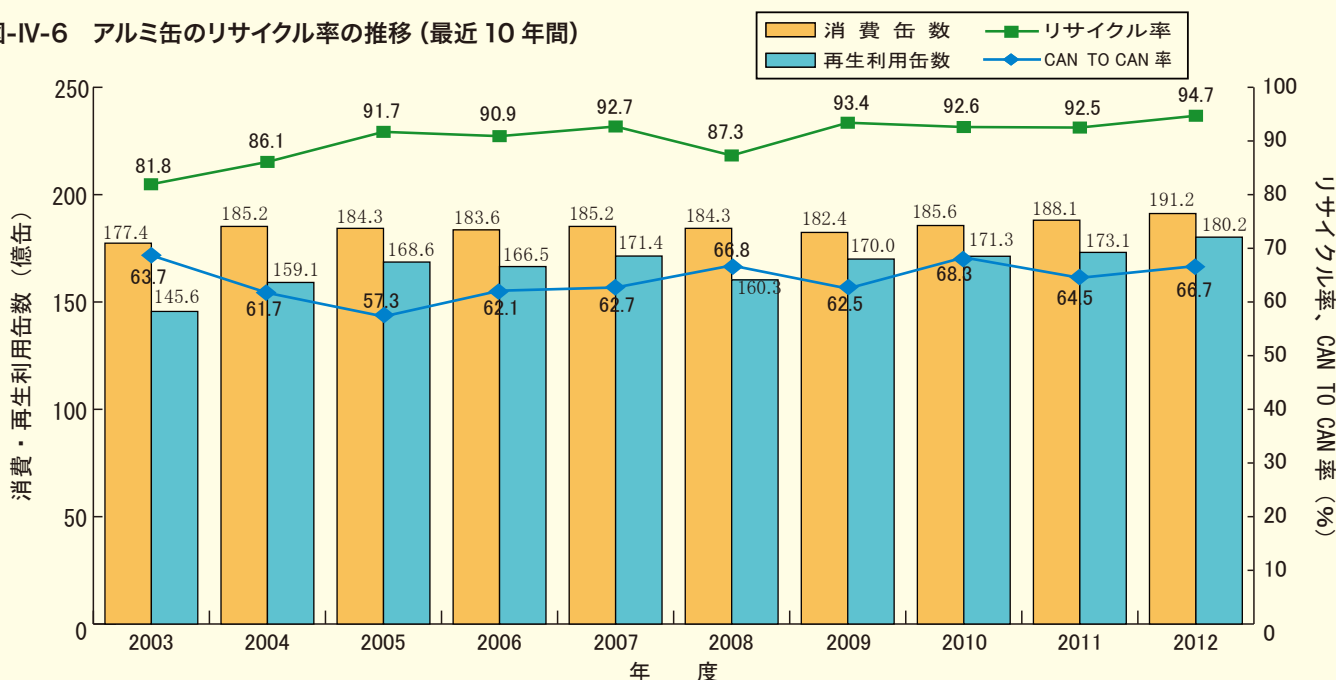
3 アルミ缶

アルミ缶の消費重量、再生利用重量、リサイクル率ともに微増傾向にあります(図-IV-6)。これは天候に恵まれたこと、新製品の販売が好調であったことなどによります。また、アルミ缶のリサイクル向上の理由は、

- ①「分別収集が普及している」
 - ②「受け皿が整備されている」
 - ③「アルミ缶はリサイクルし易い」
- こと等です。

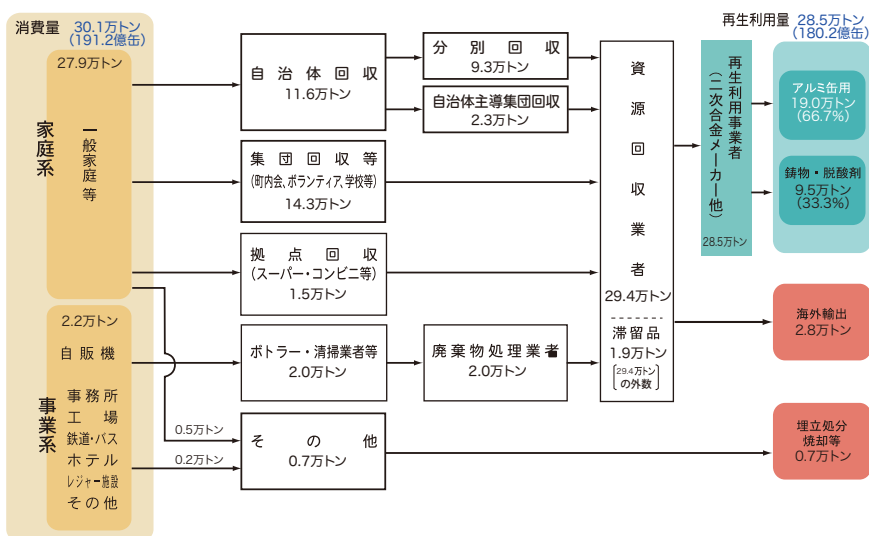
平成24年度のアルミ缶の再生利用量は285千トン、リサイクル率は94.7%となりました。安定的に90%台のリサイクル率を維持する目標を達成できるよう、引き続き関係各方面への呼びかけと協力要請および啓発活動を実施していきます。また、平成24年度のアルミ缶材への使用重量は190千トンで、缶材への使用割合(CAN to CAN率)は66.7%となっています。缶材以外には自動車用部品、製鋼用脱酸剤等として利用されています(図-IV-7)。

図-IV-6 アルミ缶のリサイクル率の推移(最近10年間)



注) 1. リサイクル率は、国内で消費されたアルミ缶のうち、国内で再生利用されたアルミ缶の割合です。
2. CAN TO CAN率は、再生利用されたアルミ缶のうち、再びアルミ缶として生産された割合です。

図-IV-7 平成24年度アルミ缶再生利用フロー



備考: 1. 再生利用量は、再生利用事業者から報告された調査結果を元に当協会が作成。
2. 消費量は、経済産業省並びにその他の調査報告の資料を参照し当協会が作成。
3. 自治体アンケート調査により、自治体回収量の値の約2割ほど集団回収を含むとして計算した。
4. ルート別アルミ缶のリサイクル料は、当協会の推定値。
5. 回収ステーションからの抜き取りについては、禁止・罰則条例等で特定できないので集団回収・その他回収の中の内数に含めた。